



附属図書館正面外観

藝大の歩き方

—上野の杜のキャンパスガイド—

第9回★附属図書館

歴史ゆかしい「上野」という場所に校地を構え、明治以来の伝統を誇る藝大の隠れた「名所」を毎回テーマを変えて紹介する。



1階エントランスホール



附属図書館側面外観。手前の銅像は高村光雲

現在の建物は一九六五（昭和四十）年に当時建築科の天野太郎先生の設計により建てられたもので、当時としては斬新なデザインを誇り、既に四十三年の歴史をもっています。

入り口を入ると右側に事務部の各部屋が並び、奥に藝大アートプラザのスペースが見えます。一階奥の壁面を活用して、昨年からは、本学の前身である東京音楽学校・東京美術学校時代の歴史的な写真がパネルで展示され、手前の階段には学長の揮毫になる書が掲げられています。二階へ上がると、まず検索用のコンピュータやカードが並んだ目録コーナーがあります。振り返

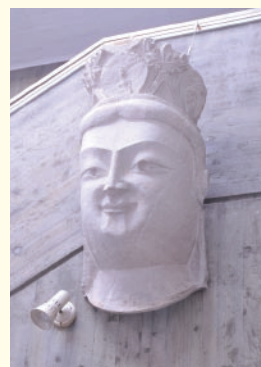
ると右に美術関係、左に音楽関係の開架閲覧室が明るく広がっているのが見えます。大学図書館としては必ずしも充分な開架スペースではありませんが、美術・音楽・一般の参考図書、和書などの基本図書、新着雑誌などがぎっしりと並び、いつも遅くまで、熱心な学生諸君や教員が調べものや学習・研究に励んでいます。開かれた図書館を指しているのです、学外の一般の方も閲覧だけは可能となっています。閲覧・レファレンスカウンターは横を奥に進むと、視聴覚室とグループ演習室があり、図書館所蔵の音源や映像、禁帯出の資料が、個人や授業で活用できるようになっています。

以上の空間とは別に、一階から五階まで書庫があり、教員や大学院生なら中に入って直に資料を見ることが出来ます。所蔵資料は四十九万点に及び、通常の図書や雑誌ばかりではなく、美術図録や楽譜、録音・映像資料、マイクフィルムなども積極的に収集されています。美術・音楽関係の資料は国

美術学部キャンパスの門を入って斜め左、マメザクラの木の奥に控えている建物が附属図書館です。門の右方には大学美術館があるので、藝大の二大施設がちょうど向かい合うように建っていることになりました。大学美術館や奏樂堂が本学の芸術活動を代表するとすれば、大学としての「知」の面を象徴しているのが図書館です。

美術・音楽関係の資料の宝庫

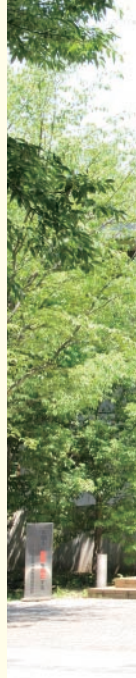
土田英三郎



上：薬師寺東塔の水煙のレプリカ。後ろに飾られているのは宮田学長の揮毫した書
下：雲岡石窟の菩薩頭部のレプリカ



1階から5階にまでおよぶ書庫。所蔵資料は約49万点



開架閲覧室

立大学では最大の蔵書を誇っており、芸術資料センターとしての中枢的な役割を果たしています。書庫の四、五階には貴重資料が保管され、美術・音楽の和古書や西洋古刊本、作曲家の自筆楽譜、音楽教育の黎明期の資料などが含まれています。本学の二二〇年以上にわたる歴史は、そのまま日本における芸術教育・芸術活

動の重要な部分であるわけですが、図書館にはその歴史を物語るような貴重な資料も豊富に所蔵されています。昨二〇〇七（平成十九）年には、これらの資料を活用して、貴重資料展「藝大をいざぶろう／附属図書館（つちだ・えいざぶろう／附属図書館）長、音楽学部教授」